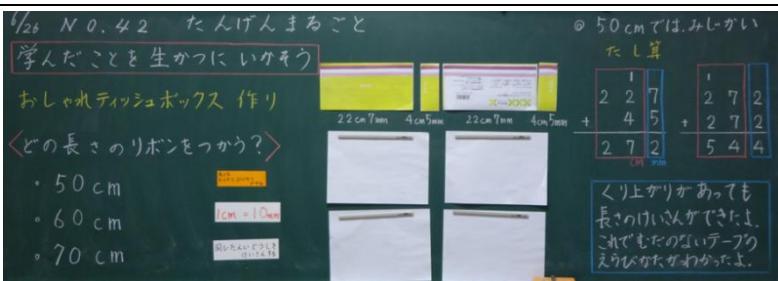


【 2年 】 算数科「単元まるごと活用」授業記録

単元名	長さをはかる (長さのたんい)				
つけたい力	繰り上がりのある長さの加法の仕方について理解する力。				
(学ばせたいこと) キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・長さは足し算できる ・同じ単位どうしを計算 ・$1\text{cm} = 10\text{mm}$ ・10になつたら繰り上がる 				
学習材	<p>ティッシュボックスの周りに巻いたテープの長さ</p> <p>【問題】 ティッシュボックスにリボンをまいて、おしゃれティッシュボックスをつくります。リボンは、50cm, 60cm, 70cm の3種類があります。それぞれ長いほど値段が高いので、できるだけむだなくつくりたいと思います。どの長さのリボンを使えばよいでしょうか。</p>				
本時のねらい	繰り上がりのある長さの加法の仕方について理解する。				
本時の課題	学んだことを生活に生かそう				
授業展開	つかむ	<p>「情報の取り出し・理解」の活動場面 … 「既習の学び」を意図的に活用</p> <p>1 予想をたてた後、各辺の長さを物差しで測る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テープを巻くのは、どこかな。 ・だいたいどれぐらいかな。 			
	考える 学び合う	<p>「思考、判断、表現・記述する」の活動場面</p> <p>2 長さを計算し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> $22\text{cm}7\text{mm} + 4\text{cm}5\text{mm} = 26\text{cm}12\text{mm} = 27\text{cm}2\text{mm}$, $27\text{cm}2\text{mm} + 27\text{cm}2\text{mm} = 54\text{cm}4\text{mm}$ $22\text{cm}7\text{mm} + 22\text{cm}7\text{mm} = 44\text{cm}14\text{mm} = 45\text{cm}4\text{mm}$, $4\text{cm}5\text{mm} + 4\text{cm}5\text{mm} = 8\text{cm}10\text{mm} = 9\text{cm}$ $45\text{cm}4\text{mm} + 9\text{cm} = 54\text{cm}4\text{mm}$ <p>だから、50cmでは短すぎて、60cmだと思う。</p>			
	まとめる	<p>「交流・確かめ」の活動場面</p> <p>4 まとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりがあっても長さのたし算ができた。 			
板書	<p>426 N 0.42 たんげんまるごと</p> <p>学んだことを生かすにいこう</p> <p>おしゃれティッシュボックス作り</p> <p>どの長さのリボンをつかう?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50cm ・60cm ・70cm <p>$1\text{cm} = 10\text{mm}$</p> <p>50cmでは、みじかいたし算</p> <p>くり上がりがあっても長さのけいがんができるよ。 これでもうたのないテープくえらいからがわかったよ。</p> 				
振り返り	問題提示でテープを巻いたティッシュボックスを見せ、ペアに1つずつティッシュボックスを用意した。しかし児童が手にとったものにはテープが巻いてなかつたために、テープをどこに巻くのかに戸惑っていた。「はこの形」を学習していない段階だったことを考慮すると、あらかじめ支援が必要なところであった。繰り上がりのある長さのたし算については、考えの説明の活動で混乱が見られた。筆算形式に板書することで児童の考えは整理することができ、理解に至っていた。				

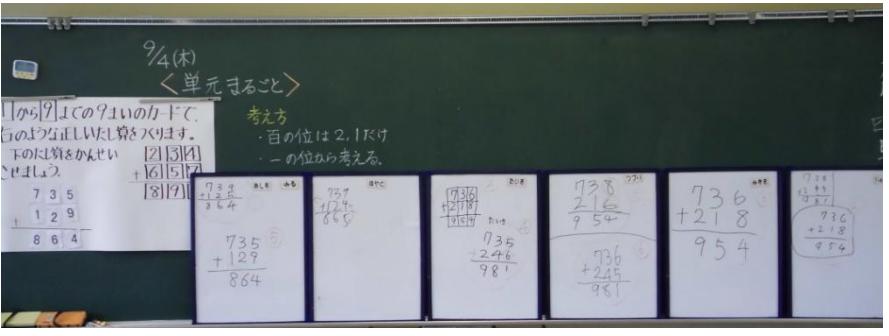
【 2年 】 算数科「単元まるごと活用」授業記録

単元名	時こくと時間	
つけたい力 (学ばせたいこと) キーワード	時刻と時間の概念、時、分の単位やそれらの関係を理解し、それらを日常生活に用いることができる力。 時刻と時間。午前、午後。	
学習材	春遠足のしおり	
本時のねらい	資料をもとに必要な事柄を選び出し、午前の時刻から午後の時刻に至るまでの時間を求める。	
本時の課題	時間はどれだけかな	
授業展開	つかむ	「情報の取り出し・理解」の活動場面 … 「既習の学び」を意図的に活用 1 資料を読み、予想をたてる。 ・おかしいな、午前なのかな、午後なのかな。 ・4時間ぐらいかな。 ・3時間ぐらいかな。
	考える 学び合う	「思考、判断、表現・記述する」の活動場面 2 予想を確かめる ・時計をつかって考えるよ。 3 考えを表現する ・午前9時45分から午前10時45分までが1時間。午前10時45分から午前11時45分までが1時間。次に午前11時45分から午後12時45分までが1時間。そして午後12時45分から午後1時までが15分。だから3時間15分。 ・まず午前11時から午後1時までを考えると、3時間。そして午前10時45分から午前11時までが15分。あわせて3時間15分。
	まとめる	「交流・確かめ」の活動場面 4 まとめる ・長い針と短い針はつながり合って動いている。
	板書	
振り返り	遠足の事前指導の後に、しおりを用いて時間を求める問題を設定した。遠足の事前指導と関連づけることで、問題意識を生むとともに「時間」の量感の実感を伴って理解することを意図した。時間の求め方に不安を残していた児童には、補充のよい機会となつたが、少し問題がやさしかったかもしれない。情報選択の必要性が生じるような問題設定の工夫が必要であった。児童が「時間」の長さを実感したのは、本学習時ではなく遠足の後かもしれない。	

【 3年 】 国語科「単元まるごと活用」授業記録

単元名	読んで、かんそうをもとう「イルカのねむり方」「ありの行列」
つけたい力	文章構成やそれぞれの段落の内容をとらえ、比較する力。
(学ばせたいこと) キーワード	はじめ、中、おわり、問い合わせ、答え、文章構成、段落の内容
学習材	「ありの行列 パート2」
本時のねらい	文章構成を把握し、段落の内容の違いにより文章の分かりやすさが変わることに気付くことができる。
本時の課題	学んだことを生かして、2つの文しようをくらべよう。
授業展開	つかむ 「情報の取り出し・理解」の活動場面 … 「既習の学び」を意図的に活用 1 「イルカのねむり方」と「ありの行列」を読む時に気をつけたことは? ・はじめに問い合わせの文、おわりに答えの文があった。 ・段落ごとに書いてある内容が違っていた。
	考える学び合う 「思考、判断、表現・記述する」の活動場面 2 「段落読み」をする。 3 あなただったら、どちらの文章を選びますか? (ノート→発表) ・パート1を選びます。パート1の9段落を見て下さい。「このように、～というわけです。」と書いてありますね。だから、答えはすぐに分かるけど、②はおわりの中のどれが答えなのか分かりにくいかからです。 ・パート1を選びます。パート2ははじめに答えが書いてありますね。パート1は、考えたり調べたりした順序で書いてあって分かりやすいけど、パート2は中やおわりの文章を読まなくても、はじめに答えが分かっていて順序がおかしいからです。 ・パート2を選びます。パート1よりもっとくわしく書いてあると思ったからです。
	まとめる 「交流・確かめ」の活動場面 4 まとめ ・文章の内容が同じでも、順序がちがうと分かりにくくなる。
板書	5/29 No. 21 たん元まるごと
振り返り	・教材文を視点（本時で気付かせたいこと）をもって読ませておくべき。 ・教材文を板書に示し、実際に比較させながら授業を展開していく必要があった。 ・目的意識をもって取り組めるような分かりやすい課題にするとよい。 (「2つの文章のどちらが分かりやすいか考えよう」など)

【 3年 】 算数科「単元まるごと活用」授業記録

単元名	大きい数の計算を考えよう（たし算とひき算の筆算）				
つけたい力	筆算の原理・手順を考えて、いろいろな方法を発見する力				
(学ばせたいこと) キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・位をそろえて計算をする。 ・繰り上がりがあるかないか見通す。 ・○+△=△+○ 				
学習材	おもしろ問題にチャレンジ				
本時のねらい	筆算の原理・手順を考えて、いろいろな方法を発見する。				
本時の課題	1～9までの数字を使って正しいたし算をつくろう。				
授業展開	つかむ	<p>「情報の取り出し・理解」の活動場面 … 「既習の学び」を意図的に活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> 問題を読み、何を求めるのかが分かる。 どこから考えていいかよいか <ul style="list-style-type: none"> 百の位は繰り上がりがないので1か2しか入らない。 残りの5枚で正しくなる計算を考える。 			
		<p>「思考、判断、表現・記述する」の活動場面</p> <ol style="list-style-type: none"> たす数が1の場合を考えるグループと、2の場合を考えるグループに分かれて考える。 正しいたし算ができたら小黒板に書き、裏返しておく。 お互いの答えを見くらべて、何種類あるか調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 一の位を入れ替えるともう1種類できる。 			
		<p>「交流・確かめ」の活動場面</p> <ol style="list-style-type: none"> 他に答えがないかみんなで考える。 <ul style="list-style-type: none"> 6種類の答えが見つかった。答えはたくさんある。 他にも問題ができそうだ。 			
板書					
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 位をそろえて計算することは理解できている。 試行錯誤しながら答えを探すので、暗算を多くすることになるが、計算に時間がかかる子は面倒がったり、計算ミスをしたりする。 				

【 4 年 】 国語科「単元まるごと活用」授業記録

単元名	読んで、自分の考えをまとめよう 教材名「動いて、考えて、また動く」
つけたい力	筆者の考えを読み取るために、事実と意見の関係をとらえて、段落相互の関係を考えることができる。
(学ばせたいこと) キーワード	○事実と考え方を読み分ける 段落のつながり、事実・説明・考え方の関係、終わりの段落に考え方述べ、他の段落には事例（事実）
学習材	「夜に鳴くセミ」
本時のねらい	筆者の考え方を読み取り、自分の考え方をまとめよう。
本時の課題	事実と考え方を読みわけ、自分の考え方をまとめよう。
授業展開	「情報の取り出し・理解」の活動場面 … 「既習の学び」を意図的に活用 1 「夜に鳴くセミ」を読んで、事実と考え方を読み取ろう。 ○形式段落 はじめ・中・終わり ○事実が書かれている段落 ○筆者の考え方や意見が書かれている段落
	「思考、判断、表現・記述する」の活動場面 2 「夜に鳴くセミ」が現れた原因を読み取ろう。 ○キーワードは「暑さ」「明るさ」の2つ ○人間のくらしで、夜も暑くなり、街頭やネオン、コンビニなどで夜も明るい。 3 筆者はセミの種類の変化や夜に鳴くセミから何を考え、読者に何を伝えたいかを考えよう。 ○人間の生活で影響をあたえている。 ○自分たちに生活について考えてといいたい。
	「交流・確かめ」の活動場面 4 あなたは、筆者の考え方共感できますか。疑問に思いますか。 ○共感できます。7段落にミンミンゼミの声が目立つと書いてあります。ぼくの家のまわりも同じようにミンミンゼミの声ばかりが聞こえてくるから筆者が言いたいことが分かります。 ○10・11段落から、自分たちが環境を悪くしている事がわかります。自分たちが考えていかなければよくならないと思うからです。 5 まとめよう ○自分の身の回りにも同じことが起こっているので、筆者の考え方共感できる。
板書	
振り返り	・筆者の意見や考えが終わりに書いてあることにすぐに気付いた。また、筆者が事例に上げたことを、自分の経験と比べながら読むことで、「共感できる」と考え、理由を書き表すことができた。

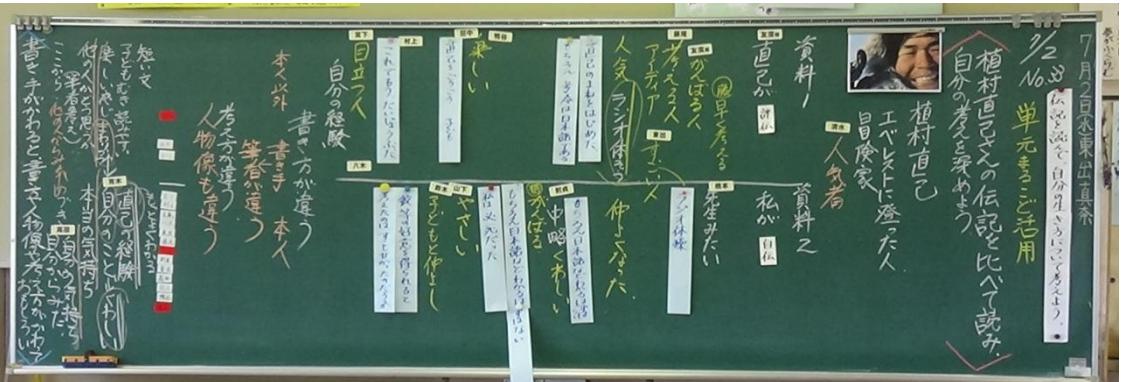
【 4 年 】 算数科「単元まるごと活用」授業記録

単元名	1億より大きい数を調べよう (大きい数のしくみ)				
つけたい力	いろいろな情報にまどわされず必要なことを取り出し、説明する力				
(学ばせたいこと) キーワード	<ul style="list-style-type: none"> 大きな数で表された $c\text{ m}$ の長さを $k\text{ m}$ へ単位変換する。 直径と半径の関係 情報を選択する力 				
学習材	自作教材 (1円玉を10枚ならべたら何kmか)				
本時のねらい	多くの情報がある問題文から、必要な情報を取り出し説明できる。				
本時の課題	正しい長さを求める方法を説明しよう。				
授業展開	つかむ	<p>「情報の取り出し・理解」の活動場面 … 「既習の学び」を意図的に活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> 問題を読み、何を求めるのかが分かる。 この問題に答えるために必要な情報はどれか。 <ul style="list-style-type: none"> 1円玉の半径が 1 cm 1円玉を1億まいならべる 1万まいならべると運動場1周になる 運動場1周は 200 m 			
	考える学び合う	<p>「思考、判断、表現・記述する」の活動場面</p> <ol style="list-style-type: none"> けんたさんのかわりに正しい答えを選び、説明しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ① (20 km) です。 ⑤ (2000 km) です。 判断理由について、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 1円玉を1億個ならべたら、半径は 1 cm で直径 2 cm。 2 cm の1億倍は 2 億 cm。 2 億 cm を km に換算すると 2000 km です。 1円玉を1万枚ならべると 200 m で、1万は1億の中に1万個あるから $200 \times 10000 = 2000000$ で、 2000000 m を km に換算すると 2000 km だから⑤です。 遠くまで行かないから、サークルKの 20 km ぐらいだと思う。 			
	まとめる	<p>「交流・確かめ」の活動場面</p> <ol style="list-style-type: none"> 学習をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 習ったことは、根拠に使う。 いらない情報は使わない。 			
板書	<p>〈正しい長さを説明しよう。〉</p> <p>1m = 100 cm $1\text{ km} = 1000\text{ m}$</p> <p>$200000000\text{ cm}$ \rightarrow 2000 km</p> <p>直径は半径の2倍だから直径が 2 cm になる。 2 cm の1億倍は 2 億 cm。 2 億 cm を km に換算すると 2000 km だ から答えは⑤。</p> <p>1円玉を1万まいならべると 200 m で、1万は1億の中に1万個あるから $200 \times 10000 = 2000000$ で、 2000000 m を km に換算すると 2000 km だから⑤です。</p> <p>○習ったことは根拠に使う。 ○いらない情報は使わない。</p>				
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> もと (根拠) になっているものをあげながら説明することができてない。 $1\text{ m} = 100\text{ cm}$, $1\text{ km} = 1000\text{ m}$ と段階を踏んで説明することができてない。 文で説明をかくと時間がかかる。もっと中学校の証明のように簡潔にかけるように。 				

【 5年 】 国語科「単元まるごと活用」授業記録

単元名	筆者の考え方をとらえ、自分の考え方を発表しよう 教材名「見立てる」「生き物は円柱形」
つけたい力	要旨をとらえて自分の考え方を明確にしながら読み、筆者の考え方や文章の書き方にについての感想を発表し合って、自分の考え方を広げたり深めたりすることができる。
(学ばせたいこと) キーワード	○文章構成（始まり・中・終わり）○要旨をとらえる○説明の仕方（例の取り上げ方）○共感・納得「そのとおりだ」「そうかもしれない」○疑問「分かりにくいな」○要旨（150字以内） 文章構成・説明の方法・例・筆者のものの見方
学習材	教材文「地図が見せる世界」
本時のねらい	学んだことを生かし、他の教材の要旨をまとめ、筆者の考え方や説明のしかたについて自分の考え方を表すことができる。
本時の課題	要旨や説明の仕方について、自分の考え方をまとめよう。
授業展開	つかむ 「情報の取り出し・理解」の活動場面 … 「既習の学び」を意図的に活用 1 この地図から、気づいたことや伝えたいことを発表しよう。 ・よく見る地図とあまり見ない地図 ・日本の場所が違う。
	考える 「思考、判断、表現・記述する」の活動場面 2 説明文「地図が見せる世界」を読み、要旨をまとめよう あるものを見なれると、それが本当のすがただと思うようになるが、同じものでも、見方を変えるだけで、別の一面を見せることにもなる。 3 考えたことを交流しよう 筆書の考えはわかりやすいです。「同じものでも、見方を変えるだけで、別の一面を見せることにもなる」というのは、2枚の世界地図の説明で自分がよく理解できたからです。
	まとめる 「交流・確かめ」の活動場面 4 学習したことをまとめよう ・筆者の考えは、納得できる。「見方を変えると別の一面が見える」ということを伝えるために、2枚の地図を使っている。要旨と自分の考えをもつことができた。
板書	
振り返り	・子どもたちは、本教材で要旨のとらえ方をまとめたこともあり、要旨をとらえることができるようになってきた。字数を制限することにも慣れて、その範囲でまとめるように意識できた。自分の考え方を伝える時間が少なかったので、時間配分を工夫すべきであった。

【 5年 】 国語科「単元まるごと活用」授業記録

単元名	伝記を読んで、自分の生き方について考えよう 教材名 「百年後のふるさとを守る」	
つけたい力	目的に応じて、本や文章を比べたり関連させたりして読み、考えたことを発表し合って、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	
(学ばせたいこと) キーワード	伝記 物語のように書かれている部分 事実の説明や筆者の考えが書かれている部分 人物がしたこと 人物の考え方	
学習材	平成23年度全国学力調査・国語Bの三本文	
本時のねらい	学んだことを生かし、伝記を比べて読み、叙述を多面的に捉えたり、自分の考えを深めたりすることができる。	
本時の課題	植村直己さんの伝記を比べて読み、自分の考えを深めよう。	
授業展開	つかむ	「情報の取り出し・理解」の活動場面 … 「既習の学び」を意図的に活用 1 本時の課題をつかむ。 ・植村直己さんの伝記を比べて読み、自分の考えを深めよう。 2 資料から読み取ったことを伝え合おう。 ・資料1は「直己が」と書いてあるから評伝で、資料2は「私が」と書いてあるから自伝だ。 ・どちらもラジオ体操で仲良くなつたことが書かれている。でも、資料1は楽しそうだし、資料2は必死で、読みとれる感じが違う。
	考える学び合う	「思考、判断、表現・記述する」の活動場面 3 伝記の続きを読むとしたら、どちらを読みたいですか。 ・自伝を読みたいです。自伝は自分のことだから詳しく書いてあります。本当の気持ちが分かると、植村さんの生き方がよりわかるからです。 ・自伝が読みたいです。植村さんの経験が多く書いてあります。本当のことがわかるからです。 ・評伝が読みたいです。他の人から見てどう思うか、筆者の考えが書いてあります。他の人がどう思ったかを知るのも楽しいからです。 4 意見を変えたい人はいますか。 ・評伝→自伝 植村さん本人の本当の気持ちを知りたいから ・自伝→評伝 評伝の内容がまだ納得できないから、納得できるまで読みたい。
	めまと	「交流・確かめ」の活動場面 5 学習したことをまとめよう。 ・書き手がかわると、書き方や人物像や考え方がかわっておもしろい。
板書		
振り返り	・子どもたちは、情報の取り出しがかなりできるようになっていたし、自伝と評伝の特徴をつかんだ上で、自分の考えを伝えることができていた。まとめ方については、教師側の工夫が必要である。	

【 6年 】 算数科「単元まるごと活用」授業記録

単元名	円の面積を求めよう				
つけたい力	円について理解を深め、複合的な問題を解こうとする力				
(学ぼせたいこと) キーワード	円の面積を求める公式、三角形、台形の面積を求める公式、○○は○○の何倍などの既習を活かして説明する				
学習材	自作問題				
本時のねらい	既習事項を活かして、複合的な問題を解くことができる				
本時の課題	円の半径を求めよう				
授業展開	つかむ	「情報の取り出し・理解」の活動場面 … 「既習の学び」を意図的に活用 1 課題をつかむ 2 円の半径を求めるために、3つの情報を提示する • 3つの情報の内、どこから手をつければいいのかを考えさせる			
	考える学び合う	「思考、判断、表現・記述する」の活動場面 3 考えを持つ 4 学び合う • ②の情報を使って三角形の高さを求める→③情報を使って台形の高さを求める →①の情報を使って円の面積を求める→円の半径の長さを求める			
	まとめる	「交流・確かめ」の活動場面 5 学習をまとめる 分かっている情報を順番に使えば、円の半径を求めることができた。 • 面積の公式 • ○○は○○の何倍			
板書					
振り返り	面積の公式は全員が覚えていた。しかし、3つの情報の内、どこに目をつければいいのか分からず、時間をかけてしまった児童は半分いた。②に目をつけて考え始めると、時間はかかるが、パズルのように順番に問題を解いていった。1度にたくさんの情報を提示し、問題を解くという経験が少ないことが改めて実感できた。今後もこのような情報を複数提示する問題を出していきたい。				

【 6年 】 算数科「単元まるごと活用」授業記録

単元名	速さ
つけたい力	資料の情報を使って、複合的に考える力
(学ばせたいこと) キーワード	縮尺、単位の変換、速さの公式、グラフの読み取り、時差、時刻と時間
学習材	自作
本時のねらい	資料の情報を使って、サンクトペテルブルクの到着日時を求める方法を考える
本時の課題	サンクトペテルブルクに到着する日時の求め方を考えよう
授業展開	つかむ 「情報の取り出し・理解」の活動場面 … 「既習の学び」を意図的に活用 1 課題をつかむ 2 資料を提示する
	考 え る 学 び 合 う 「思考、判断、表現・記述する」の活動場面 3 考えを持つ 4 学び合う ・長さと縮尺から実際の距離を求める→グラフの時間と距離から飛行機の速さを求める→実際の距離と飛行機の速さから飛行時間を求める→出発時間と気候時間、時差から到着日時を求める。
	まとめる 「交流・確かめ」の活動場面 5 学習をまとめる ①地図上の長さと縮尺から実際の距離が分かる。 ②実際の距離と速度から飛行時間が分かる。 ③飛行時間と出発時間と時差を考えれば、到着日時が分かる。
板書	 <p>羽田 → サンクトペテルブルク</p> <p>羽田 9/29 午後2時 月 の 20時間後の日時 9/30 午前10時 日</p> <p>時差が7時間だから サンクトペテルブルクに到着日 9/30 午前3時</p> <p>① 地図上の長さと縮尺から実際の距離が分かる。 ② 実際の距離と速度から飛行時間が分かる。 ③ 飛行時間と出発時間と時差を考えれば、到着日時が分かる。</p>
振り返り	8人中1人が正確に答えを出すことができた。残りの7人も時差、時刻と時間以外は答えを出すことができた。答えを出すまでに、たくさん既習を使うことになるが、一つ一つを正確に出すことができていた。ただ、かける数とかけられる数が逆になってしまいしまう児童もいたので、もう一度確認をしていきたい。